



## M コマンド

---

この章では、コマンド名が M で始まる Cisco NX-OS システム管理コマンドについて説明します。

# match datalink

フロー レコードで一致データ リンク（またはレイヤ 2）属性オプションを設定するには、**match datalink** コマンドを使用します。データ リンク設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match datalink {mac source-address | mac destination-address | ethertype | vlan}
```

```
no match datalink {mac source-address | mac destination-address | ethertype | vlan}
```

## 構文の説明

<b>mac</b>	MAC アドレスを指定します。
<b>source-address</b>	送信元 MAC アドレスを指定します。
<b>destination-address</b>	宛先 MAC アドレスを指定します。
<b>ethertype</b>	EtherType を指定します。
<b>vlan</b>	VLAN ID を指定します。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

NetFlow レコード コンフィギュレーション (config-flow-record)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、フロー レコードで一致データ リンク属性オプションを設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record NetFlow1
switch(config-flow-record)# match datalink mac source-address
switch(config-flow-record)#
```

次に、フロー レコードからデータ リンク一致オプションを削除する例を示します。

```
switch(config-flow-record)# no match datalink mac source-address
switch(config-flow-record)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<code>match ip</code>	NetFlow レコード マップを定義するために、一致 IP オプションを設定します。
<code>match ipv4</code>	NetFlow レコード マップを定義するために、一致 IPv4 オプションを設定します。

# match ip

NetFlow レコード マップを定義するために、一致 IP オプションを設定するには、**match ip** コマンドを使用します。このオプションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match ip {protocol | tos}
```

```
no match ip {protocol | tos}
```

構文の説明	<table border="1"> <tbody> <tr> <td><b>protocol</b></td> <td>プロトコルを指定します。</td> </tr> <tr> <td><b>tos</b></td> <td>Type of Service (ToS; タイプ オブ サービス) を指定します。</td> </tr> </tbody> </table>	<b>protocol</b>	プロトコルを指定します。	<b>tos</b>	Type of Service (ToS; タイプ オブ サービス) を指定します。
<b>protocol</b>	プロトコルを指定します。				
<b>tos</b>	Type of Service (ToS; タイプ オブ サービス) を指定します。				
デフォルト	なし				
コマンド モード	NetFlow レコード コンフィギュレーション (config-flow-record)				
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 VDC 管理者				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0(1)</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
4.0(1)	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは必要ありません。				
例	<p>次に、NetFlow レコード マップを定義するために、一致 IP オプションを設定する例を示します。</p> <pre>switch(config)# flow record Custom-NetFlow-Record-1 switch(config-flow-record)# match ip protocol switch(config-flow-record)# match ip tos switch(config-flow-record)#</pre> <p>次に、一致オプションを削除する例を示します。</p> <pre>switch(config-flow-record)# no match ip protocol switch(config-flow-record)# no match ip tos switch(config-flow-record)#</pre>				
関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><b>show flow record</b></td> <td>NetFlow レコードに関する情報を表示します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	<b>show flow record</b>	NetFlow レコードに関する情報を表示します。
コマンド	説明				
<b>show flow record</b>	NetFlow レコードに関する情報を表示します。				

# match ipv4

NetFlow レコード マップを定義するために、一致 IPv4 オプションを設定するには、**match ipv4** コマンドを使用します。このオプションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**match ipv4** {source | destination} address

**no match ipv4** {source | destination} address

## 構文の説明

<b>source</b>	送信元アドレスを指定します。
<b>destination</b>	宛先アドレスを指定します。
<b>address</b>	アドレスを指定します。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

NetFlow レコード コンフィギュレーション (config-flow-record)

## サポートされるユーザーロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、NetFlow レコード マップを定義するために、一致 IPv4 オプションを設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record Custom-NetFlow-Record-1
switch(config-flow-record)# match ipv4 source address
switch(config-flow-record)# match ipv4 destination address
switch(config-flow-record)#
```

次に、一致 IPv4 設定を削除する例を示します。

```
switch(config-flow-record)# no match ipv4 source address
switch(config-flow-record)# no match ipv4 destination address
switch(config-flow-record)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show flow record</b>	NetFlow レコードに関する情報を表示します。

# match (NetFlow)

Flexible NetFlow フロー レコードの一致基準を指定するには、**match** コマンドを使用します。フロー レコードの一致基準を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match {flow direction | interface {input | output} | ip {protocol | tos} | ipv4 {destination address
| source address} | transport {destination-port | source-port}}
```

```
match {flow direction | interface {input | output} | ip {protocol | tos} | ipv4 {destination address
| source address} | transport {destination-port | source-port}}
```

## 構文の説明

<b>flow direction</b>	一致の対象となるフローの方向を指定します。
<b>interface input</b>	一致基準が入カインターフェイスに基づいていることを指定します。
<b>interface output</b>	一致基準が出カインターフェイスに基づいていることを指定します。
<b>ip protocol</b>	一致基準がプロトコルに基づいていることを指定します。
<b>ip tos</b>	一致基準が ToS に基づいていることを指定します。
<b>ipv4 destination address</b>	一致基準が宛先 IPv4 アドレスに基づいていることを指定します。
<b>ipv4 source address</b>	一致基準が送信元 IPv4 アドレスに基づいていることを指定します。
<b>transport destination-port</b>	トランスポート層フィールドの一致基準が宛先ポートに基づいていることを指定します。
<b>transport source-port</b>	トランスポート層フィールドの一致基準が宛先ポートに基づいていることを指定します。

## デフォルト

デフォルトでは一致基準は指定されません。

## コマンド モード

フロー レコード コンフィギュレーション

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

**match** コマンドを使用するには、事前に Flexible NetFlow フロー レコードをイネーブルにしておく必要があります。

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、一致の対象としてフローの方向を指定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# match flow direction
```

次に、一致基準が入カインターフェイスに基づくよう、指定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# match interface input
```

次に、一致基準が出力インターフェイスに基づくよう、指定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# match interface output
```

次に、一致基準がプロトコルに基づくよう、指定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# match ip protocol
```

次に、一致基準がタイプ オブ サービス (ToS) に基づくよう、指定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# match ip tos
```

次に、一致基準が宛先 IPv4 アドレスに基づくよう、指定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# match ipv4 destination address
```

次に、一致基準が送信元 IPv4 アドレスに基づくよう、指定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# match ipv4 source address
```

次に、トランスポート層フィールドの一致基準が宛先ポートに基づくよう、指定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# match ipv4 transport destination-port
```

次に、トランスポート層フィールドの一致基準が送信元ポートに基づくよう、指定する例を示します。

```
switch(config)# flow record FLOW-RECORD-1
switch(config-flow-record)# match ipv4 transport source-port
```

---

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>flow record</b>	フロー レコードを作成します。

---

# match transport

NetFlow レコード マップを定義するために、一致トランスポート オプションを設定するには、**match transport** コマンドを使用します。一致トランスポート オプションを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
match transport {destination-port | source-port}
```

```
no match transport {destination-port | source-port}
```

## 構文の説明

<b>destination-port</b>	トランスポート宛先ポートを指定します。
<b>source-port</b>	トランスポート送信元ポートを指定します。

## デフォルト

なし

## コマンドモード

NetFlow レコード コンフィギュレーション (config-flow-record)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、NetFlow レコード マップを定義するために、一致トランスポート オプションを設定する例を示します。

```
switch(config)# flow record Custom-NetFlow-Record-1
switch(config-flow-record)# match transport source-port
```

次に、設定を削除する例を示します。

```
switch(config-flow-record)# no match transport source-port
switch(config-flow-record)
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show flow record</b>	NetFlow レコードに関する情報を表示します。

# mode

NetFlow サンプラでモードを指定するには、**mode** コマンドを使用します。モードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**mode** *samples*

**no mode** [*samples*]

構文の説明	<i>samples</i> サンプリング 1 回あたりのサンプルの数。範囲は 1 ~ 64 です。				
デフォルト	なし				
コマンド モード	NetFlow サンプラ コンフィギュレーション (config-flow-sampler)				
サポートされるユーザロール	ネットワーク管理者 VDC 管理者				
コマンド履歴	<table border="1"> <thead> <tr> <th>リリース</th> <th>変更内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4.0(1)</td> <td>このコマンドが導入されました。</td> </tr> </tbody> </table>	リリース	変更内容	4.0(1)	このコマンドが導入されました。
リリース	変更内容				
4.0(1)	このコマンドが導入されました。				
使用上のガイドライン	このコマンドにライセンスは必要ありません。				
(注)	F2 シリーズ モジュールでは、1:100 の追加サンプリングが設定された値に適用されます。たとえば、設定されたサンプリングが 1/800 の場合、実際に適用されるサンプリングは 1/80000 です。この常に有効な追加の 1:100 のサンプリングにより、すべての F2 シリーズ モジュール ポートのパケット範囲は 1 ~ 819100 です。				
例	<p>次に、NetFlow サンプラでモードを指定する例を示します。</p> <pre>switch(config)# sampler Custom-NetFlow-Sampler-1 switch(config-flow-sampler)# mode 1 out-of 1000 switch(config-flow-sampler)#</pre> <p>次に、モード設定を削除する例を示します。</p> <pre>switch(config-flow-sampler)# no mode</pre>				
関連コマンド	<table border="1"> <thead> <tr> <th>コマンド</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><b>show sampler</b></td> <td>NetFlow サンプラに関する情報を表示します。</td> </tr> </tbody> </table>	コマンド	説明	<b>show sampler</b>	NetFlow サンプラに関する情報を表示します。
コマンド	説明				
<b>show sampler</b>	NetFlow サンプラに関する情報を表示します。				

# monitor counter

簡易ネットワーク管理プロトコル (SNMP) のモニタ カウンタを設定するには、**monitor counter** コマンドを使用します。モニタ カウンタ設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor counter {invalid-crc | invalid-words | link-loss | protocol-error | rx-performance |
  signal-loss | state-change | sync-loss | tx-performance}
```

```
no monitor counter {invalid-crc | invalid-words | link-loss | protocol-error | rx-performance |
  signal-loss | state-change | sync-loss | tx-performance}
```

## 構文の説明

<b>invalid-crc</b>	無効な CRC カウンタを設定します。
<b>invalid-words</b>	無効なワード カウンタを設定します。
<b>link-loss</b>	リンク損失カウンタを設定します。
<b>protocol-error</b>	プロトコル エラー カウンタを設定します。
<b>rx-performance</b>	入力 (rx) パフォーマンス カウンタを設定します。
<b>signal-loss</b>	信号損失カウンタを設定します。
<b>state-change</b>	状態変更カウンタを設定します。
<b>sync-loss</b>	同期損失カウンタを設定します。
<b>tx-performance</b>	出力 (tx) パフォーマンス カウンタを設定します。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

ポート モニタ コンフィギュレーション (config-port-monitor)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
4.1(2)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、SNMP カウンタを設定する例を示します。

```
switch(config) port-monitor name PM1
switch(config-port-monitor)# monitor counter signal-loss
switch(config-port-monitor)#
```

次に、カウンタ設定を削除する例を示します。

```
switch(config)# no monitor counter signal-loss
switch(config-port-monitor)#
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
counter	個々のカウンタを設定します。

# monitor erspan origin ip-address

Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) 起点 IP アドレスを設定するには、**monitor erspan origin ip-address** コマンドを使用します。ERSPAN の起点 IP アドレスの設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**monitor erspan origin ip-address** *ip-address* **global**

**no monitor erspan origin ip-address** *ip-address* **global**

構文の説明	<i>ip-address</i>	[IP Address]。
	<b>global</b>	(任意) すべての VDC のデフォルトの仮想デバイス コンテキスト (VDC) 設定を指定します。

デフォルト なし

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション (config)

サポートされるユーザロール ネットワーク管理者  
VDC 管理者

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.1(1)	このコマンドが導入されました。

使用上のガイドライン デフォルトの VDC の起点 IP アドレスを変更すると、すべてのセッションに影響を与えます。このコマンドにライセンスは必要ありません。

例 次に、ERSPAN の起点 IP アドレスを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor erspan origin ip-address 10.1.1.1 global
switch(config)#
```

次に、ERSPAN IP アドレスを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no monitor erspan origin ip-address 10.1.1.1 global
switch(config)#
```

# monitor erspan granularity

ERSPAN Type III のセッションの粒度を設定するには、**monitor erspan granularity** コマンドを使用します。この機能を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor erspan granularity {100_ms | 100_ns | 1588 |ns}
```

```
no monitor erspan granularity {100_ms | 100_ns | 1588 |ns}
```

## 構文の説明

<b>100_ms</b>	(任意) 100 マイクロ秒を指定します。
<b>100_ns</b>	(任意) 100 ナノ秒を指定します。
<b>1588</b>	(任意) 秒またはナノ秒単位で、IEEE 1588 時間表現の形式を指定します。
<b>ns</b>	(任意) ナノ秒を指定します。

## デフォルト

vdc

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
6.1(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン



(注) クロック マネージャは粒度の設定に基づいて ERSPAN タイマーを調整します。IEEE 1588 を設定すると、クロック マネージャは、複数のスイッチで ERSPAN タイマーを同期化します。設定しないと、クロック マネージャはスイッチのマスター タイマーに ERSPAN タイマーを同期化します。



(注) 588 粒度モードは、Cisco NX-OS Release 6.1 でサポートされず、選択した場合は拒否されます。



(注) M2 シリーズ モジュールは、100 マイクロ秒、100 ナノ秒、ナノ秒の粒度をサポートしています。F2 シリーズ モジュールは、100 マイクロ秒と 100 ナノ秒の粒度のみをサポートしています。

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、100 マイクロ秒の粒度を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor erspan granularity 100_ms
switch(config)#
```

# monitor session

ポート間トラフィック分析用に、Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) イーサネット スイッチド ポート アナライザ (SPAN) セッションを設定するためのモニタ コンフィギュレーション モードを開始するには、**monitor session** コマンドを使用します。ERSPAN または SPAN セッションをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
monitor session {session_number | type [erspan-source | erspan-destination | local]}
```

```
no monitor session [{session_number | type [erspan-source | erspan-destination | local]} | {all}}]
```

## 構文の説明

<b>session_number</b>	スイッチド ポートのモニタに使用するセッション番号。有効な範囲は 1 ~ 48 です。
<b>type</b>	セッション タイプを指定します。セッション タイプには、 <b>local</b> 、 <b>erspan-source</b> 、 <b>erspan-destination</b> のいずれかを指定できます。
<b>erspan-source</b>	(任意) ERSPAN 送信元セッションを作成します。
<b>erspan-destination</b>	(任意) ERSPAN 送信元セッションを作成します。
<b>local</b>	(任意) ローカル セッションを作成します。
<b>all</b>	スイッチド ポートをモニタするすべてのセッションを指定します。

## デフォルト

なし

## コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション (config)

## サポートされるユーザロール

Super user  
VDC 管理者  
VDC ユーザ

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(1)	セッションの数は 48 に増えました。
4.0(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

ERSPAN 送信元セッションの設定時、rx、tx、またはその両方が入力されていない場合、発信者は両方向に設定されます。

ERSPAN の設定についての詳細は、『Cisco Nexus 7000 Series NX-OS System Management Configuration Guide, Release 6.x』を参照してください。

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、モニタ コンフィギュレーション モードを開始し、ポート間のトラフィック分析のために SPAN セッション番号 9 を設定する例を示します。

```
switch(config)# monitor session 9 type local
switch(config-monitor)# description A Local SPAN session
switch(config-monitor)# source interface ethernet 1/1
switch(config-monitor)# destination interface ethernet 1/2
switch(config-monitor)# no shut
```

次に、SPAN セッションを起動する前に、任意の SPAN 宛先インターフェイスをレイヤ 2 SPAN モニタとして設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport monitor
switch(config-if)# no shutdown
```

次に、通常の SPAN 宛先トランク インターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface Ethernet1/2
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)# switchport mode trunk
switch(config-if)# switchport monitor
switch(config-if)# switchport trunk allowed vlan 10-12
switch(config-if)# no shutdown
```

次に、RSPAN を終了または拡張する例を示します。

```
switch(config)# vlan 200
switch(config-vlan)# remote-span
switch(config-vlan)#
```

次に、ローカル SPAN を使用して RSPAN VLAN トラフィックをモニタする例を示します。

```
switch(config)# monitor session 1 type local
switch(config-monitor)# description RSPAN VLAN as source
switch(config-monitor)# source vlan 200
switch(config-monitor)# destination interface ethernet 1/2
switch(config-monitor)# no shut
switch(config-monitor)#
```

次に、SPAN セッションをディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# no monitor session 9 type local
```

次に、ERSPAN 送信元を作成する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 1 type erspan-source
switch(config-monitor-erspan-src)# source int eth1/1
switch(config-monitor-erspan-src)# destination ip address 10.1.1.1
switch(config-monitor-erspan-src)# erspan-id 101
switch(config-monitor-erspan-src)# vrf erspan-vrf
switch(config-monitor-erspan-src)# filter vlan 100
switch(config-monitor-erspan-src)# no shut
```

次に、ERSPAN 宛先を作成する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 1 type erspan-destination
switch(config-monitor-erspan-dst)# destination interface eth1/5
switch(config-monitor-erspan-dst)# vrf foo
switch(config-monitor-erspan-dst)# erspan-id 12
switch(config-monitor-erspan-dst)# source ip 10.1.1.1
```

```
switch(config-monitor-erspan-dst)# no shut
```

次にアクセス コントロール リスト (ACL) フィルタを作成し、ERSPAN 送信元、IP 存続可能時間 (TTL) および DiffServ コード ポイント (DSCP) 値に関連付ける例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 3 type erspan-source
switch(config-monitor)# description erspan_src_session_3
switch(config-monitor-erspan-src)# source interface port-channel 2
switch(config-monitor-erspan-src)# filter vlan 3-5, 7
switch(config-monitor-erspan-src)# filter access-group ACL1
switch(config-monitor-erspan-src)# destination ip-address 10.1.1.1
switch(config-monitor-erspan-src)# erspan-id 5
switch(config-erspan-src)# vrf default
switch(config-erspan-src)# ip ttl 25
switch(config-erspan-src)# ip dscp 42
switch(config-monitor-erspan-src)# exit
```

#### 関連コマンド

コマンド	説明
<b>show monitor session</b>	指定した SPAN セッションの設定を表示します。
<b>description</b>	SPAN セッションに、32 文字以内のコメントまたは説明を追加します。
<b>destination</b>	送信元パケットがコピーされる SPAN の宛先を追加します。
<b>source</b>	SPAN および ERSPAN セッションのパケットをコピーする送信元とトラフィック方向を設定します。

# mtu

指定したイーサネット スイッチド ポート アナライザ (SPAN) セッションのパケットに対する最大伝送ユニット (MTU) の切り捨てサイズを設定するには、**mtu** コマンドを使用します。MTU の切り捨てサイズの設定を削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
mtu mtu-size
```

```
no mtu
```

## 構文の説明

<i>mtu-size</i>	MTU の切り捨てサイズ。設定範囲は 176 ~ 1500 バイトです。ローカル SPAN の範囲は 64 ~ 1500 バイトです。
-----------------	---

## デフォルト

ディセーブル

## コマンド モード

モニタ コンフィギュレーション (config-monitor)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
6.1(1)	6.1 以降では、MTU の切り捨てで ERSPAN セッションもサポートされません。
5.2(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

正しい Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) を使用していることを確認します。VDC の変更は **switchto vdc** コマンドを使用します。

MTU の切り捨てと SPAN のレート制限は、同じ SPAN セッションでイネーブルにできません。1 セッションで両方を設定した場合、レート制限の設定をディセーブルにするまで、レート制限だけが F1 シリーズ モジュールで許可され、MTU 切り捨てがディセーブルになります。この制限は、F2 および M2 シリーズ モジュールまたはスーパーバイザ 2 には適用されません。

MTU の切り捨ておよび ERSPAN の送信元レート制限は、F シリーズおよび M2 シリーズ モジュールおよびスーパーバイザ 2 のみでサポートされます。M1 シリーズ モジュールではサポートされていません。



(注)

MTU の切り捨てと ERSPAN サンプリングは同時にイネーブルにでき、互いに優先順位はありません。これは、送信元パケットのさまざまな側面 (サイズ対パケット数) に適用されるためです。

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、指定された SPAN セッションのパケットの MTU の切り捨てサイズを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
```

```
switch(config)# monitor session 5
switch(config-monitor)# mtu 128
switch(config-monitor)#
```

次に、指定された ERSPAN セッションのパケットの MTU の切り捨てサイズを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 3 type erspan-source
switch(config-erspan-src)# mtu 100
```

次に、指定された SPAN セッションのパケットの MTU の切り捨てサイズの設定を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 5
switch(config-monitor)# no mtu
```

## 関連コマンド

コマンド	説明
<b>monitor session</b>	SPAN セッションを設定するため、モニタ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>show monitor session</b>	SPAN セッションのステータスを表示します。

# multicast best-effort

指定した Encapsulated Remote Switched Port Analyzer (ERSPAN) または Ethernet Switched Port Analyzer (SPAN) セッションでマルチキャスト ベスト エフォート モードを設定するには、**multicast best-effort** コマンドを使用します。ERSPAN または SPAN セッションのマルチキャスト ベスト エフォート モードを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

**multicast best-effort**

**no multicast best-effort**

## 構文の説明

このコマンドには引数またはキーワードはありません。

## デフォルト

ディセーブル

## コマンド モード

モニタ コンフィギュレーション (config-monitor)

## サポートされるユーザロール

ネットワーク管理者  
VDC 管理者

## コマンド履歴

リリース	変更内容
5.2(1)	このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

デフォルトでは、SPAN の複製が、入力および出力ライン カードの両方で実行されます。マルチキャストのベスト エフォート モードをイネーブルにすると、SPAN の複製は、マルチキャスト トラフィックの入力ライン カードか、レイヤ 3 インターフェイスから出て行くパケットの出力ライン カードでのみで行われます (つまり、出力ライン カードでは、レイヤ 2 インターフェイスから出て行くパケットは、SPAN 用に複製されません)。

正しい Virtual Device Context (VDC; 仮想デバイス コンテキスト) を使用していることを確認します。VDC の変更は **switchto vdc** コマンドを使用します。



(注)

マルチキャストのベスト エフォート モードは M1 シリーズ モジュールだけに適用されます

このコマンドにライセンスは必要ありません。

## 例

次に、指定した ERSPAN または SPAN セッションでマルチキャスト ベスト エフォート モードを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 3
switch(config-monitor)# multicast best-effort
switch(config-monitor)#
```

次に、指定した ERSPAN または SPAN セッションのマルチキャスト ベスト エフォート モードを削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# monitor session 3
switch(config-monitor)# no multicast best-effort
switch(config-monitor)#
```

**関連コマンド**

コマンド	説明
<b>monitor session</b>	SPAN セッションを設定するため、モニタ コンフィギュレーション モードを開始します。
<b>show monitor session</b>	SPAN セッションのステータスを表示します。